

記念の御朱印状を奉納

R 那智勝浦 C 両寺社に各2000枚

那智勝浦ロータリークラブ(RC)は6日、創建1700年を迎えた熊野那智大社と来年が西国三十三所草創1300年にあたる那智山青岸渡寺に対し、各境内で記念奉納品を奉納した。

密鉛筆画家の篠田教夫さんと写真画家の諏訪敦さんの作品を配した記念御朱印状用紙。那智大社には篠田さんが描いた「那智瀧図」、青岸渡寺には諏訪さんの「本堂」が印刷され、前者には高浜虚子の「神にませばまこと

うるはし那智の滝」の句が、後者には「補陀落や」は、4年後に創立60年を岸打つ波は三熊野の那智のお山にひびく滝津瀬」と同寺の御詠歌が添えられており、各2000枚が納められた。

迎える同会の記念事業の一環として企画されたもの。後誠介会長は「このような寺社に縁のある絵画が配置された御朱印状が頒布されるのは、全国でもはじめてのことと聞いている。この御朱印状が、熊野の霊場の魅力をさらに広める役割を果たし、両寺社がま

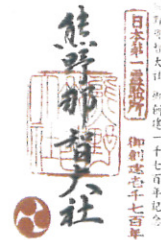
すまず発展されることを祈念しています」と思いを語った。

奉納後那智大社社務所で行われた同クラブの記念例会で男成洋三宮司は「1700年を記念する授与品としてふさわしいものを奉納いただいた。多くの人にお受けいただきたい」と述べ、高木亮英副住職は「ロータリアンの機微に富んだ画期的な奉納に感謝している。観音信仰の鼓吹(こすい)の一助に使わせていただきたい」とコメントした。

この記念御朱印状は那智大社で15日ごろから、青岸渡寺では7日から授与所に並ぶ。(垣内健吾)



熊野那智大社の御朱印状



青岸渡寺の御朱印状

